

Ⅱ 進路指導の変化

1 入試の多様化と時間不足を背景に進路指導が困難に

大学短大進学率上位の高校が指導の難しさを感じている

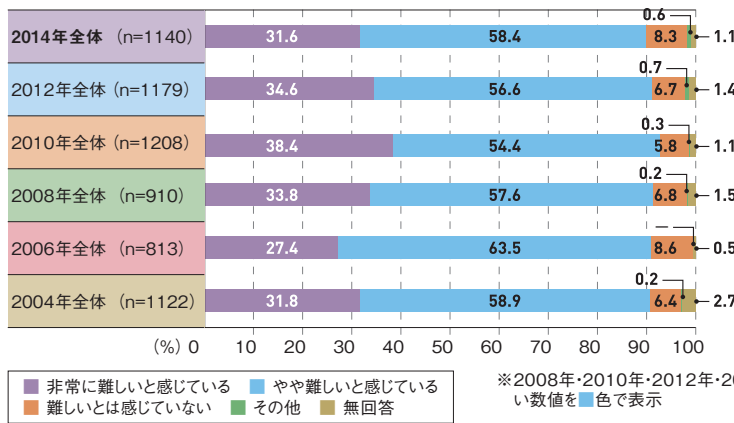
従来からの進路指導について、難しさはどう変化しているか(図表12)。「非常に難しい」「やや難しい」を合わせると、全体の9割が進路指導に難しさを感じているという状況は04年以降変わっていないが、「非常に難しい」の割合は10年をピークに減少傾向であり、14年は32%であった。

「非常に難しい」の割合を大短進学率別にみると、08～12年は進学率が低い高校ほど「非常に難しい」が多かったが、14年は進学率70～95%未満校が最多となっている。08年と比較すると「非常に難しい」割合は進学率上位校、特に70～95%未満校で増加していることがわかる。

家計・雇用・就職への不安は回復
「入試の多様化」が増加

進路指導について「非常に難しい」

図表12 現在、進路指導を難しいと感じているか(全体/単一回答)



95%以上	70~95%未満	40~70%未満	40%未満
27.5	36.8	34.4	27.5
15.7	29.8	42.7	44.6
18.2	30.9	38.0	52.6
24.1	32.3	37.6	35.7
-	-	-	-
-	-	-	-

※2008年・2010年・2012年・2014年それぞれ、「全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

進学率別にみる 進路指導の困難の要因の違い

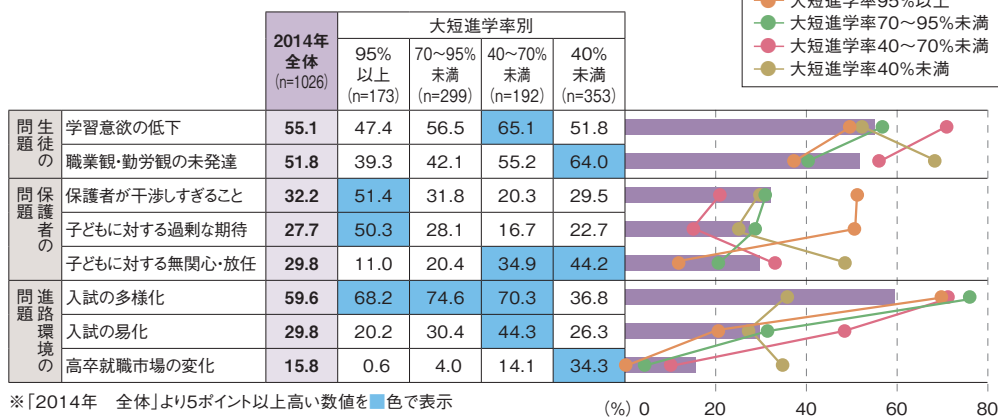
進学率95%以上校 【保護者】の「干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」が5割と多い。他高校に比べ【生徒】要因の割合は少なく、生徒自身より周囲の環境に難しさの要因がみられる。

進学率70～95%以上校 【進路環境】「入試の多様化」が他高校に比べ高く、要因のトップ。推薦・一般それぞれ形態が異なる入試方法に対応した進路指導が求められる

るため、「非常に難しい」と感じる教員が多いのではないかと推察される。
進学率40～70%未満校 他高校に比べ【生徒】の「学習意欲の低下」、【進路環境】「入試の易化」が高い。学力向上につながらない生徒の態度や入試制度に、困難を感じる教員は少なくないようである。

進学率40%未満校 【生徒】「職業観・勤労観の未発達」、【進路環境】「高卒就職市場の変化」など就職指導の困難が多い。また過去の調査結果と同様、【保護者】の「無関心・放任」が他高校に比べ高く、学校と家庭が協力しあうような進路検討の実現が課題となっている。

図表13 進路指導の困難【抜粋】(進路指導を「難しい」と感じている/複数回答)

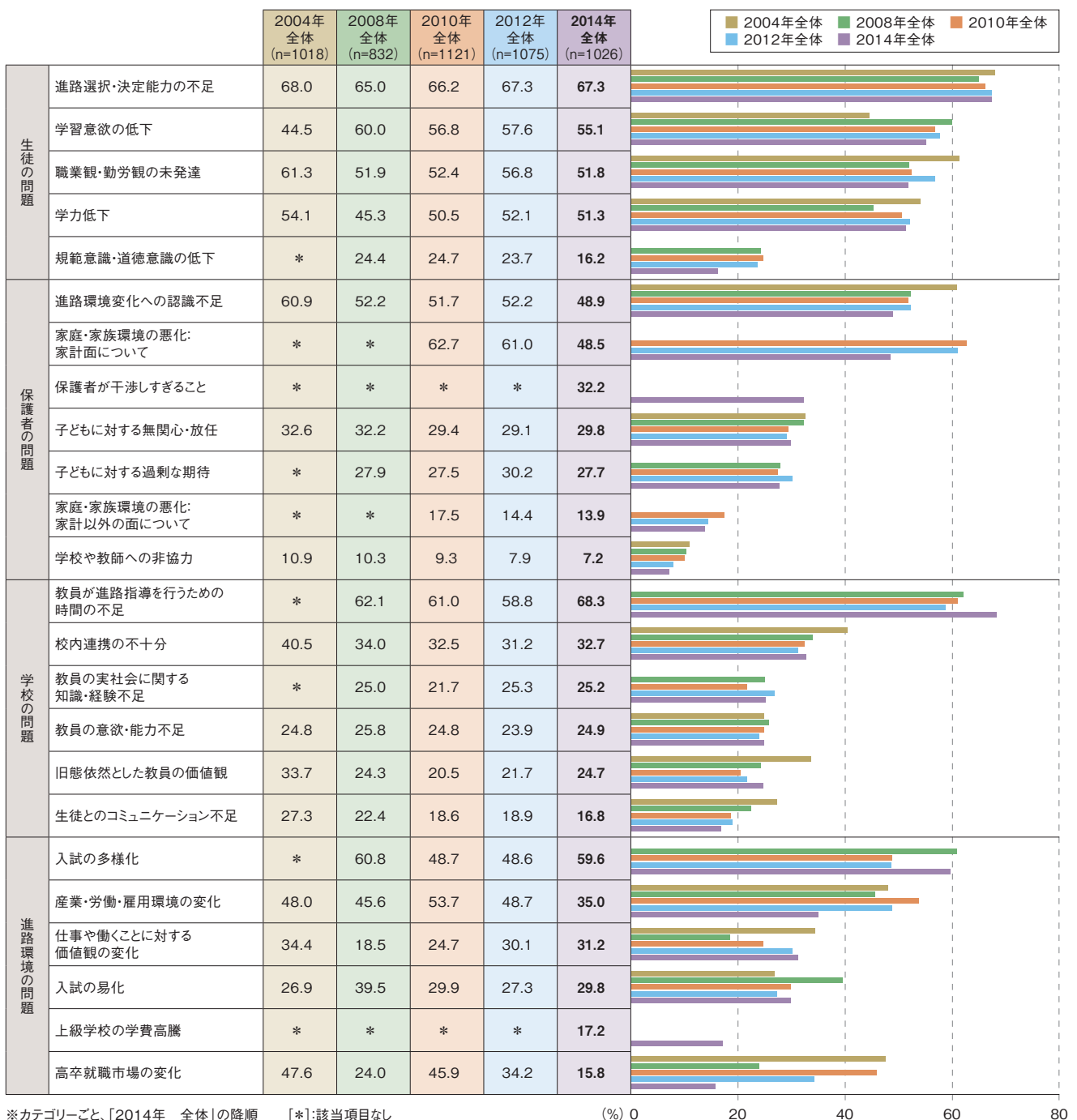


※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

「やや難しい」回答者にその要因をすべて選んでもらった(図表14)。トップは【学校】の「教員が進路指導を行うための時間の不足」68%、2位は僅差で【生徒】「進路選択・決定能力の不足」67%、3位【進路環境】「入試の多様化」60%である。以下、【生徒】「学習意欲の低下」55%、「職業観・勤労観の未発達」52%、「学力低下」51%が続く。この10年間、【生徒】が困難の要因として多く上位にあがる傾向は変わっており、生徒の状況に困難を感じる教員は多いようだ。

今回、変化が確認されるものをあげると、前回より10ポイント増加しているのは【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」、【進路環境】「入試の多様化」。反対に10ポイント超減少しているのは【保護者】「家庭・家族環境の悪化…家計面」、【進路環境】「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」であった。景況感を受けて就職環境については改善の兆しを感じる一方、多様化する入試方法や生徒への対応に十分時間をかけた進路指導を行えない多忙な教員の実態がうかがえる。

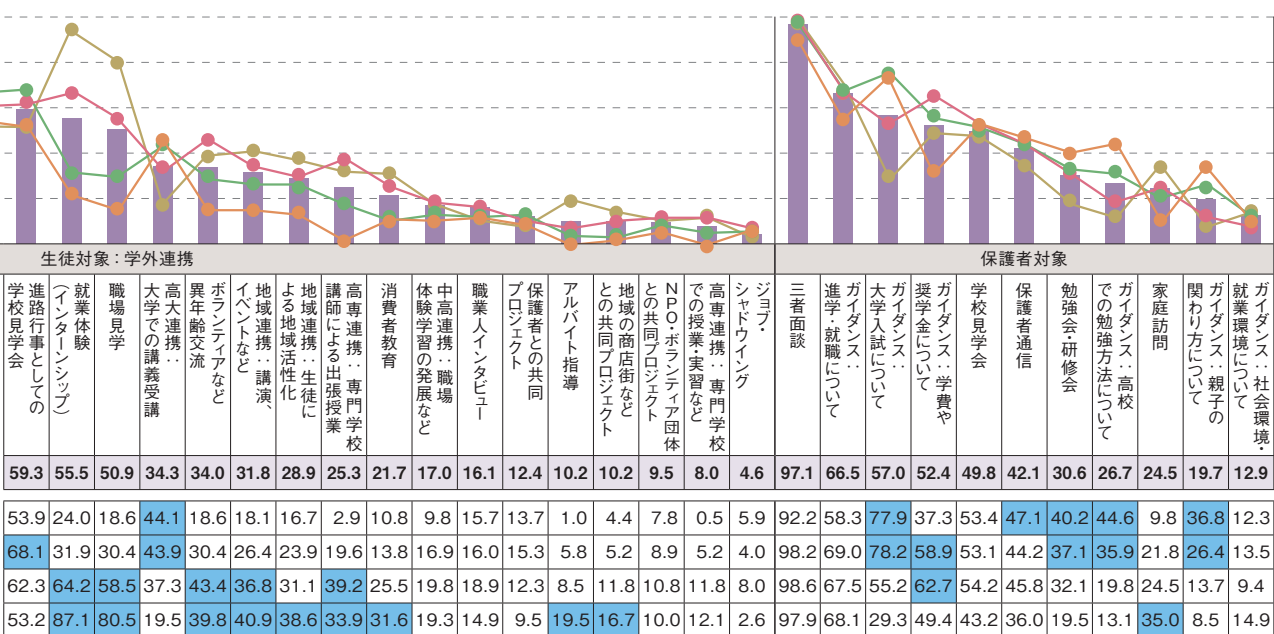
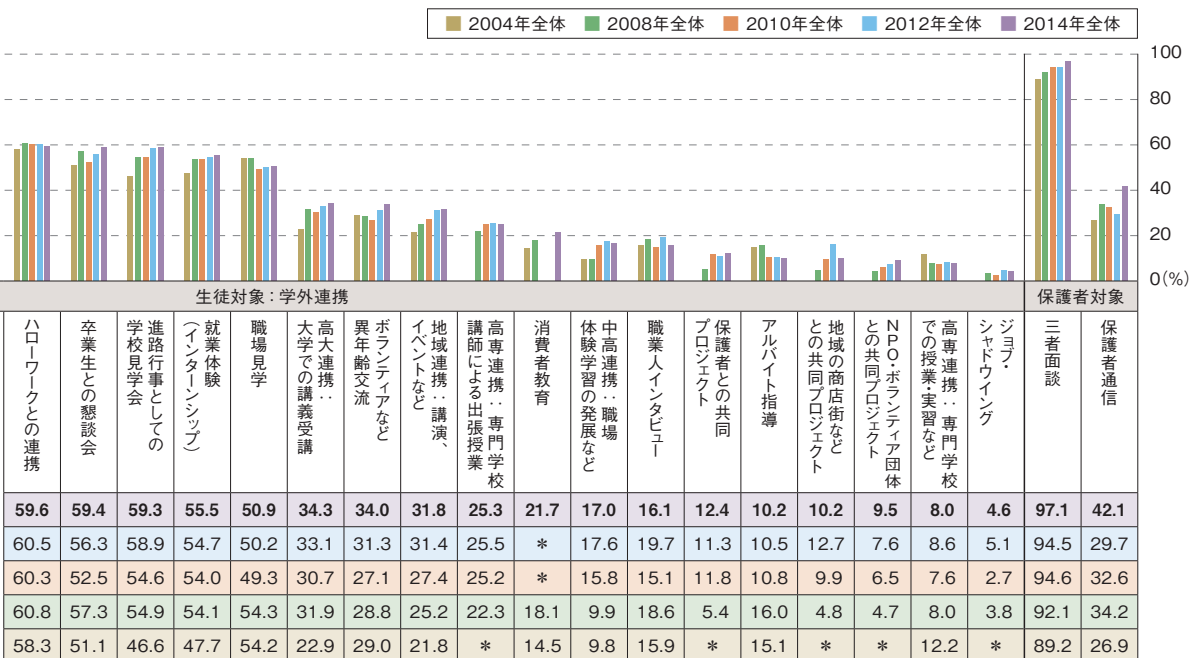
図表 14 進路指導の困難の要因の変化(進路指導を「難しい」と感じている/複数回答)



2 学校外、保護者へも広がる進路指導

生徒に向けた進路指導は充実
保護者向け取り組みが増加

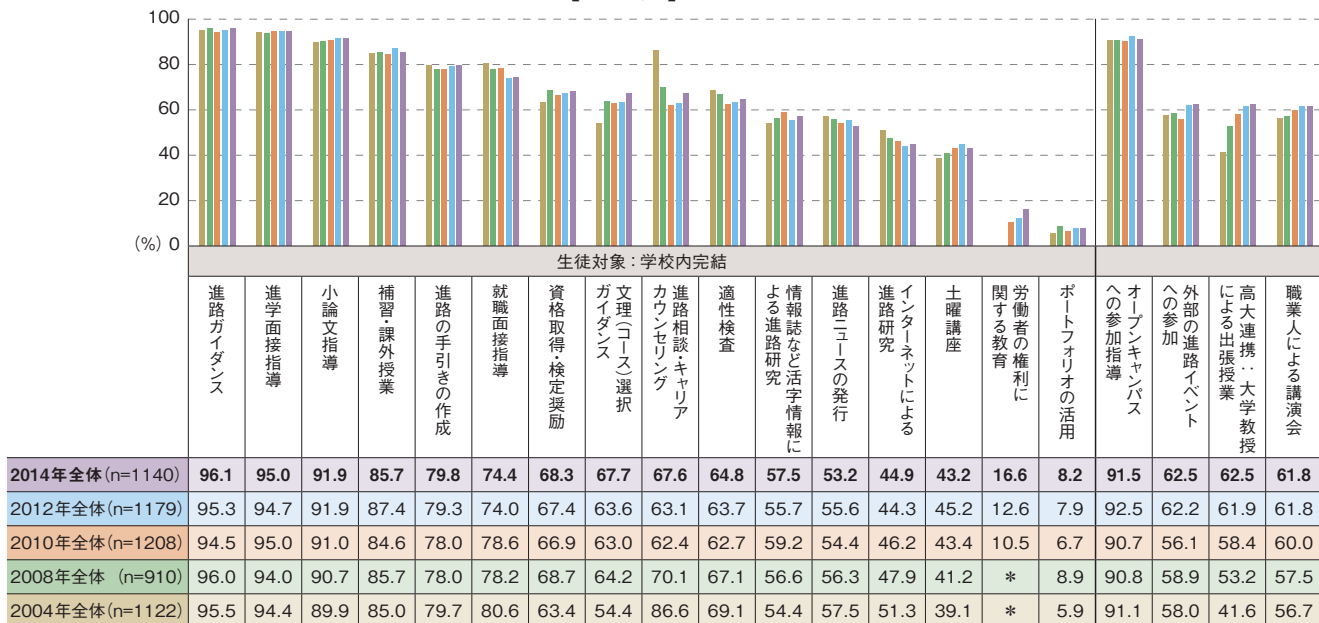
現在本校で実施している進路指導の取り組みをすべて選んでもらった（図表15・16）。【生徒対象】「保護者対象」いずれも、上位項目の顔ぶれ、実施率はほぼ前回と同様である。データーの掲載は割愛するが、現在実施中の進路指導について「今後は廃止を検討している／検討したい」ものをたずねたところ、全項目とも廃止意向はわずか1〜2%にとどまる。21Pでみたように、進路指導を困難にする最大要因は「教員が進路指導を行うための時間の不足」であるが、現状は取り組み内容の精査・廃止には至らず、指導内容の充実が教員の多忙を招いているようである。



【生徒対象】校外の地域・企業と連携した取り組みは、この10年で増加傾向。「オープンキャンパスへの参加指導」92%が1位だが、以下、進学率によって重点的な取り組みが異なる。進学率95%・70〜95%未満校では「高大連携…大学教授による出張授業」など進学指導、40〜70%未満校は「高大連携…大学教授による出張授業」「ハローワークとの連携」の進学・就職どちらも視野に入れた指導、40%未満校では「就業体験」「ハローワークとの連携」など就職指導に特徴がある。このほか、進学率70%未満校では「ボランティアなど異年齢交流」「地域連携」などの校外活動が進学率上位校に比べ高い。

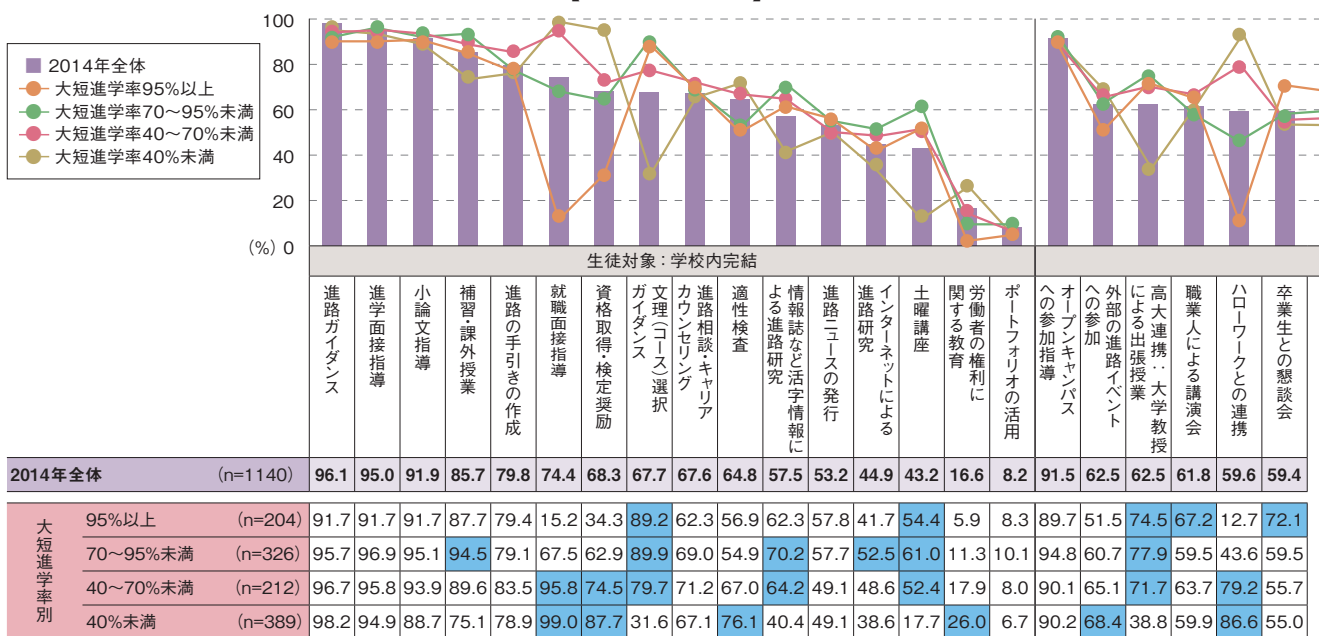
【保護者対象】では、「三者面談」97%はほぼ全校に浸透しているほか、「保護者通信」42%が前回から12ポイント増加している。「ガイダンス」も多種実施されており、保護者ともコミュニケーションをとりながら生徒の指導に取り組む姿勢がみえる。

図表 15 現在、実施している進路指導の取り組み【時系列】(全体/複数回答)



※カテゴリーごと「2014年 全体」の降順 [*]:該当項目なし

図表 16 現在、実施している進路指導の取り組み【大短進学率別】(全体/複数回答)



※カテゴリーごと「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示